(明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可) (日刊) 日曜及祭日の翌日休刊 明治四十二年十月十九日 (火曜日) 第二百四十二號 (一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

●人蔘見物記(四)

放浪生

人蔘と云ふ植物は變挺在な奴で日光を好みながら直接に其光線を受けるのを非常に嫌ふと云ふ事だ、是故に試作場を見ると一面に葭莚の掩がしてある、而も東南西はすつかり閉ふて北に面する方丈けを開放してある、畢竟之は日光を見ることは好きだが直接に光に當てられるのは厭なのであるからだ、隨分に贅澤な植物である、而して更に贅澤なるは其植へらるゝ土と肥料とを非常に毛嫌ひする、人間ならば迚も平民として居られる奴でない、頗る貴族的である物である、少しく注意を怠れば枯れたり腐つたりして稍ともすれば其種族は盡きたがる傾向がある、之を人間にすれば迚も優勝劣敗の世には立つことが出來ない種族である、放任して置けば、北海道のアイヌや布哇のカナカの樣に漸次に滅却して仕舞ふのである、之を思へば、到底膨脹蔓延すべき種族でない、朝鮮の地に此人蔘が適すると云ふは……眞に好個の對照ではあるまいか杯と何となく無常の感が起る、宇宙に於ける總ての物は常に進化して息まぬのである、動物でも植物でも舊世界の物は段々と進化して同じ種類でも趣を異にする樣になる、中に繁殖力の微弱なるものは滅却して仕舞つたものも澤山あると云ふ事だ、然らば韓國の人蔘君も何世紀かの后には此運命に接するのではあるまいか、斯く考へ來れば人蔘大明神樣に對して余は少なからぬ同情を注がねばならぬ。

更に厄介なるは此人蔘と云ふ奴が一年々々に收獲するものでなく、六年たゝなければ收獲することが出來ぬのである、此點に於ても何事にも迅速を尊ぶ廿世紀式に戻る代物である、六年たゝなければ金にならぬとは隨分に氣長の仕事ではないか、其中に天變地異が起つたら元も子も棒に振るのである、何とか統監府の勢ひで一年にて收獲することにすることが出來ないものか杯とつまらぬ事を考へつゝ一巡視畢つた、併し害虫の驅除法や、播種法や、土の選擇、肥料の分量等に就て學理的の施設は實に感服すべきものである、余は三宅博士が孜々として此人蔘作業の改善に盡されし功勞を謳謌するに躊躇せぬ、是にて人蔘見物は全く終つたのである。

小學校に於て高麗燒を見せるからとの御託宣が傳はつた亦も金魚の糞然としてゾロ〳〵と小學校に迄御歩ひになつた、居留民中の重立たる人が羽織袴で玄關迄御出迎と云ふ御丁寧な高麗燒見物だ、門外漢には分らぬが稀々珍らしそうな陶器が陳列されてあつた、宇佐川總裁や、吉原副總裁杯は熱心に見惚れて居られた、余の如き沒風流者には何の興味もなく却て難有迷惑であつた是が濟むとヨアケと云ふ開城隨一の料理屋で晝食の御馳走を受けた、此等に就て委わしき事は既に同業者によりて書かれ居るを以て更に蛇足を加ふの要を見ぬ。

開城に於ける外人の經營しつゝある耶蘇教及學校、其他開城今後の發展に就ては多少記すべき事あるも何れ機を得て掲ることゝすべし(完)

●滿韓石炭の優劣

(村田技師實地視察談)

農商工部の村田技師は曩に和田維四郎氏と共に大連、營口、撫順及本溪湖を視察し頃日歸省したるが滿洲炭と韓國炭とに就きて實際上より其の觀察談を聞きたるに先づ撫順及本溪湖の炭田狀況に付き語りて曰く

▲撫順 の地質は第三期層に屬し九州炭と同一時代なり現在採掘し居れる所は千金寨百七十四尺、楊柏堡百二十尺、老虎臺百四十四尺なるが大體に於て炭層百五六十尺あり延長は渾河に沿ふて四里、炭量約七八億萬噸と稱せらる尤も此量は全量の四分の一又は五分の一だけを採掘せんとする豫想なるが目下は四五層の部分を選び採掘し居りて一日の出炭高一千六七百噸にて運搬力を増加する時は幾何にても出炭することを得るなり殊にハサミも無く斷層及び坑內の水少なきを以て採掘容易なりとす工夫は二千四五百人あり採掘費は最初の明治四十年度に於て一噸二圓六七十錢なりしが今日は一圓六七十錢にて可なり採掘噸數は四十年度に於て二十三万噸、四十一年度に於て五十萬噸あり其內二十八萬噸は自家用なりとす輸出先は芝罘上海、香港等にて四十二年度よりは韓國鐵道に少量を使用し日本へも輸出せり目下は九百萬圓の起業費を投じ竪坑二個の開鑿中にて大山坑は本年中に着炭の筈にて其設備整ひたる上は双方にて一日に六千噸を採掘する豫定なり本溪湖は石炭期に屬する石炭岩と砂岩の間に在し含炭層約五百六十尺なり採掘に堪ゆるは九層にて目下は三層丈を採掘し居れるが長四千間幅千五百間にて炭量は太子河の水準以下千尺まで採掘するものとして約一億噸なるが大倉組に於ては日清合同の計畫を立て目下協定中なるが談判遲滯、運び居れりと工夫は約五百あり採炭量一日百五十屯なるが是れは設備の不完全なるにあらずして安奉線の運搬力が許さゞる爲めに多量を採掘し能はざるが爲めなり炭質は半無烟炭にて脆きが故に粉炭に適當することは有名なり現在にては安奉線に使用するの外滿鐵線附近に於て使用し居れり即ち豆粕及酒精の製造燃料なりとす將來安奉線の完成したる曉は一日五百屯を採掘する見込にして炭量豐富にして勞働賃安きが故に安價なる石炭を得らるべきなり(以下次號)



第十一席

伯山改 神田松鯉口演

然るに、白縫が年來畜狎してある、一匹の猿があめます、此の猿能く人の言語を解得けて、なか〳〵怜悧に擧動ます、所が年を經て其形狀も段々大きくなりまして、八九歲の童子くらゐに見ねます、折しも三月下旬、白縫は腰元の若葉と云へるものと庭に立出で、櫻の花を手折らんとなし給ふに、彼の猿は忽ち走り來りて、若葉の手を握り又は裳にからみ付き、遂には若葉に抱き付き、淫りがましきことをせんと致しますので、白縫は大に憤り 白「汝畜生の身を以て人ぞ辱かしめんとするか」と、長押に掛けたる長刀押取り、斬落さんと致されます、猿は驚き恐れて、築山の方へ逃行かんとしますので、彼方此方を追廻はしたが、何處へ往つたか姿は見ねずなりましたから、若し歸り來らば強く縛しめてやらんと、其儘に夕餉を仕舞ひ、其夜は彼の若葉、宿直に當りて白縫の枕頭邊に臥しましたが、春の夜の短きに、若き女の前后も知らず眠りましたが、夜も更けて陰に響く山寺の鐘の、無常を告ぐるころ彼の若葉が 若「キャッ」と一聲叫びましたので、姫は驚き覺めて、頭を上げて見給へば、燈火消て黑白も分らず 白「誰ぞあるか」と屢々喚應され、次の間に臥したる老女が驚愕けたる聲に回辭をなして起き上りましたが、此所にも燈火は消へたるゆゑ、周章狼狽き、其所等探りまはりますに間毎〳〵の燈火悉く消へて居ります、之れが爲めに人々騷ぎ立つて、漸く火を索めて手燭に移し走り來ました、皆々立ち寄つて見ますと、若葉は喉笛を喰破られ朱に染つて死んで居りました、人々驚ろき惘れて、其邊を改め見ますと、血を踏みました足跡があります、其形ち人間の如くなれど、少しく違つて居ります、主從之を目て驚ろきながらも怪しみました、姫は暫時沈吟して 白「此の足跡を見るに、疑ふべきもなき猿の足なり、彼れ今日追れたるを深く恨み、潛かに歸り來て、間毎の燈火を滅置きしは、若葉を殺して逃げ出る便りにせしものならめ、此足跡を探りに疾く〳〵捜し需めよ」との仰せに、老女は心得て、廊下を見まするに、遣戸に鮮血を引き、連子を押破りました所あり、血は此所で止まつてありますから、猿は此所から這入つて又是れより逃げ出したものと見ねます、其の中聯多の侍女ども驅せ集り各々懷劍を携さへて探し索むるといへども更らに相見ません、此時父の忠國も馳せ來つて、何事にやと尋ねられ、白縫は憤りに堪ずして、猿が若葉に淫れんとした始めより、斯樣〳〵と物語りますと、忠國も大に驚き怒つて 忠「コハ許すべきものにあらず、者共早く來れ」と仰せに馳せ來る郎黨には、手取の與次、大矢新三郎、越矢源太、松浦二郎、吉田兵衞、打出紀八、高間三郎、同四郎など、皆一騎當千の家隷ども、庭口より馳せ來りました、其の時に忠國はかよう〳〵の事なればと、告げ知らして 忠「木を伐り草を刈拂つても、彼の猿を追捕て打殺せ」と下知すれば 家「畏りました……」と、之れより東西に手分け致し、炬火振照して舘の四隅を探しました、更らに影だに相見へません、然るに西の冠木門の方に、今しも藥垣を越て、逃げ出すものがありますを、手取の與次月影に透し見まして、疾風のごとくに驅け着け、鎗を持つて突き留めんといたすとき、彼れは忽地松が枝を傳ひ、表の方へ跳ね下りました 與「猿は門外へ逃げ出したり」と聞くより、各々「ソレ逃すな」と表へ馳せ出しましたが、はやくも阿蘇山の邊り、文珠院といふ古寺へ驅け込みました、郎黨共は最早此寺の中へ入つたれば、容易しと思ひの外、猿は塔の火珠に走せ登りました、然れど彼が往方は見定めましたから、門の外より遽しく門扉を叩き 家「我々は阿蘇の家隷なり、如此〳〵の事にて夜中來つたり門を開かれよ」と焦燥ば、門番の老翁が 老「ハイ〳〵、只今開けます」と返事はすれど埒明ず、漸く門を開いて呉れましたゆゑ、衆人ドカ〳〵と裡に入りましたが、扨て如何して捕へんやうもなく、空しく塔を眺めて明ゆく空を待つばかり



京城新報

東京經濟協會に於ける演説(一)

峯岸本社長

坂谷男爵閣下、梅法學博士、及び諸君の前に於て爰に私が演説をするは、甚だ光榮の次第と存じます、私は韓國に在ること約三個年半、數日前一寸歸京した者でありますが、韓國の事は及ばず乍ら研究して居る積りでありますから今晩は韓國經營の現狀に就て少しばかり申し上げたいと存じます。

●●●伊藤公の功蹟　從來我が殖民地なる臺灣及び樺太に於て、官吏も人民も唾棄すべき惡事を働いて醜聞を流したことが一再に止まらず無かつたが、韓國が保護國と爲りて以來我が官吏及び在留人の内に目立つた惡事を働く者も無く、且つ其間が比較的圓滿に經過しつゝあるは、是れ洵に前統監伊藤公の靈力に由るものと謂はなければならぬ、伊藤公は極めて公明清廉な人物であるから、此偉大なる人格に押へられて誰も惡事が働けないのである、伊藤公の人格に就ては如斯して非難するところはないが、其政治上の主義方針に就ては私は敬服の出來ぬ事が尠くなきを以て公在職中は極力反對をしました、然し私は日本人であるから無意味に又は亂暴に其施設を妨害したことはありませぬ、元來私は韓國の處分に就ては根本的に前統監と意見を異にし强硬の意見を持つて居りますから、屢々伊藤公にも進言しましたが、第二協約と云ひ、最近の第三協約と云ひ、皆私どもの主張の幾部分が實現せられたるものとして痛快に感じて居る次第であります。

●●●●治外法權の撤去　只今梅法學博士は在留外國人の員數は我が邦人に比すれば極めて微々たる者であるから、治外法權を撤去しても外國には實際は差支無いと申されましたが仰の通りで外國人は實に尠ない、然し其少數の外國人が却々厄介である、厄介の程度に於ては彼等外國人の一人は我が邦人の百人千人にも抵抗すべきでありませう、であるから容易に侮り難い、私も梅法學博士の如く、治外法權撤去の必要は早くより氣付いた所でありますが、此目的を達する爲めには司法權を取得して、裁判警察制度監獄設備等を改善せなければならないと信じたのであります。

●●●監獄の不備　領事裁判を撤回せしむるには監獄警察裁判の改良が最も必要でありますが、然し前伊藤統監は裁判に警察に改良を施し其他學校とか病院とかを立てるに骨を折られたが、監獄改良には一向注意せられませんでした、曾て外國の新聞通信員が京城の監獄を見ることを望んだが許されなかつた、然し其後露國の文學者が幸に之を許されて内部を觀察しましたが其不潔にして不備なること言語に絶せりと云ひました、又日本の統監政治に反對した故ベッセルの大韓毎日新聞の編輯長であつた、梁起鐸が韓國が日本から獨立するには國債を返さなければならないと云つて金を集つめ夫を私消した疑が掛つて獄に投せられた、然るに彼は病氣と爲り、其診斷を受くる爲めに獄吏の許可を受けて外出した、ところが彼は病院に行かずしてベッセルの所有なる大韓毎日申報社へ逃歸り、隱れて居るのを韓警察官が拘引しようとしたので、非常の問題と爲り英人所有家屋に住んで居る者を韓警察官が相當の手續をせずに拘引しようとしたので、英國領事が文句を云ひ妙な交渉が開始せられました、事實は京城の監獄の獄室は間口二十尺奥行十二尺の小さなもので其中に二十人の囚人を收容してあるから大抵の者は寢ることも起きることも出來ず、ソコで病氣と爲らざるを得ない、コンナ監獄は治外法權撤去の妨害となるものである、故に私は當局者も見るところありてか其後三十萬圓をかけて模範監獄を京城に造ることにした、之で裁判警察監獄と揃ふことになるのである

東京電報

▲司法廳長官の内定　韓國裁判所設置に關する諸法令は明日の官報を以て公布の筈なるが右は統監府内に司法廳を設置して長官は勅任一等とし現韓國法部次官倉富勇三郎氏に内定せり(十七日)

▲藤公巡遊の日割　滿州巡遊の途に上りたる伊藤公は下之關に於て豫定を十八日大連着二十日旅順着二十一日滯在二十二日奉天着二日間滯在二十五日奉天發二十六日哈爾賓着と定め其以後は同地に於て定むることに決したり(同上)

▲諸勅令本日發布さる　統監府裁判所令同司法廳官制其他同法權實施に關する諸勅令二十四件は本日の官報を以て發布せられたりと(十八日着)

▲キ將軍の入京期　キッチナル將軍の一行は愈々三十一日釜山出發下之關に到着十一月一日午前下之關發列車にて直行二日午後二時十分新橋着の事に確定

▲兩線起工の復活　京元湖南兩線に關する閣議の經過に就き柴田内閣書記官長は語つて曰く始め遞信省要求の新事業は勿論一切の新經費を削除したる爲め京元湖南兩鐵道の敷設費も勢ひ否決の運命に立ち至れり斯くて豫算全部を議了したる後桂首相は韓國輿論を代表して請願せる數通の電報を手にし兩線の必要急務を說きたる結果列座の閣員を動かし茲に形勢一變し原案豫算年度割に大削減を加へて復活せしめ二線とも來年度より起工する事に閣議決定せりと(十六日夜)

▲帝國議會の召集　帝國議會召集期は來る十二月廿五日と決定せり

▲ウイッテ伯の來朝　露國ウイッテ伯は近々日本へ來朝すべし(同上)

▲菊地總長の渡米　菊地京都大學總長は近日出發渡米の途に上る筈なるも右は主として紐育大學主催のヒピクホルクに參列する用務を帶べるものなり記者曰く該會は全世界各國に於ける大學者を招待して講演を開くものにして嘗てホムリン其他大家の出演せるあり今回は我政府に我國學界を代表せる學者の出席を望み來りたる爲めなり

▲露清問題の交渉　日清懸案はプラタス島解決を最後として緊要問題を終了したるに依り清國は露國に對し目下の懸案たる(一)黑龍江流域區劃及江口(二)東蒙古張南府露兵撤退請求及領事館撤退(三)イルクック税關の清國製茶輸出課税に關する抗議(四)庫倫の獨逸人取締制定(五)蒙古に於ける露國の借款金鑛採掘權等に付商議を開始すべく提議し駐清露公使と外務部尚書梁敦彦と協議中也(同上)

▲工場法案の成行　工場法案は農商務省にて大体決定し内務省の意見を徴し合致したる上は關係各省および中央衛生會の意見を聞き必要なる修正を加へ更に地方長官工場主および各工業團體の意見を徴し之を參酌したる上來る議會に提出すべき運びなり(同上)

▲輕氣球費の減額　行政整理に基く各省豫算減額の結果輕氣球研究に要する費額も二百万圓以上を要求せん筈なりしが財政上各省との權衡より到底此支出を許さざるを以て研究の進行に伴ひ漸次該費額を增加することに決したり(同上)

▲電鐵市營と輿論　東京電鐵市營とならんとする爲め輿論は激昂し反對の氣勢倍々盛んならんとす(同上)

▲藤公に對する推測　伊藤公の滿州巡遊は關東都督府廢留に關する調査の爲なり當地内外人は注意を惹起す

北京電報

▲袁世凱氏の入京　袁世凱入京し北京政界の注意を惹けり(十六日)

▲梁敦彦氏の辭職　外務部尚書梁敦彦は辭職に決す(十八日)

▲英米企業の企圖　英米シンヂケートは南滿洲鐵道會社と競爭の爲め關外鐵道錦州より蒙古の張南府を經て齊々哈爾に達する縱貫線の布設を支那政府と協議中なり(十八日)

▲公使罷免と米人　駐清亞米利加公使クレーン氏の免官の電報達するや在北京亞米利加人は大に驚愕し是れ東洋通にして常に日本の反對者たる同公使の秘書官ミラート氏のクレーン氏を誤りたるものなりとせり(十七日着)

紐育電報

▲大統領を暗殺せん　大統領タフト氏がテキサス州とメキシコの境なるハルバート橋上に於てメキシコ大統領と會見する時を期して是を暗殺せんとする陰謀シカゴに於て露見し是を防止せんが爲め嚴重なる警戒行はれ居れり(十七日)

▲ボイコット煽動　當地に於て昨今頻りに日本に對しボイコットを煽動するものあるも何れも功を奏せず是れ日本輸出の大豆豆粕の關係多きが爲めなるべし

▲貨物直營不評判　滿洲鐵道會社の貨物積卸直營は内外人間一般に頗る不評判を招きつゝあり以上二件(十七日着)

雜報

●度相の辭任承認　度支部大臣任善準氏は曩きに再三辭表を提出したりしも其都度李總理其他より留任を勸告し辭表を却下されたるが尚病氣と稱し登廳執務せざるのみか總ての會合にすら列席せざる依り民間偶々彼れを目して俸給盜賊と叫ぶものあるに到りたれば周圍の狀勢よりしても掛冠せざるを得ざるに到りたるに兼ねて内閣會議に於て反對したる司法權問題も愈々十一月一日より實施さるゝこととなりたれば茲に益々辭職の意を堅うし過般更らに李總理に對し辭任を申出でたるに總理亦彼の決意を飜すべからざるものとし此程曾禰統監に度相辭任の承認を申請したる處統監より去る十六日を以て其旨承認されたりと因みに度相の後任に就きては娘一人に婿八人の感あるも高法相其後を襲ふべく而して交迭期は二十五六日頃なりと傳ふるものあるも多分三十日前後なる可(京通)

●閣議と兩線豫算　去る十五日の閣議に於て四十三年度豫算概算は全部決定せるが其内韓國鐵道建設改良費の通過額は三百五十万圓にして内譯京元鐵道敷設費百萬圓湖南鐵道敷設費百萬圓京義線改良費百五十萬圓の由なりと

●韓銀總裁任命と渡韓　韓銀の創立總會は愈々來る廿九日開催せらるゝに付總裁候補者たる市原盛宏氏は同日付にて任命せらるゝ筈なるが渡韓は來月十日以前たるべく凡ての書類は十七日夜歸省したる木村雄次氏携帶し歸りたれば度支部との打合せを了し引返し上京の由にて各重役の渡韓前には大畧の事項を用意し置く筈

●道路保存規則の發布　慶尚北道にては道路保存の目的を以て今般道路保存取締規則を發布したるが要は道路橋梁、左右溝渠及び立木の保存は總べて沿道各面各洞里にれいて負擔し且常に路上の

●法權委任紀念祝賀會　來る十一月三日の天長節は在韓同胞唯一の佳辰なるが此日を機とし司法權委任の紀念祝賀會を併催すべく居留民有力者間に議起り或る向にては目下寄り〳〵協議中なりと

●新設裁判所減少さる　司法權實施に伴ひ新設さる裁判所數は百十二なりしが法權實施豫算減少の結果九ヶ所を削除し百三ヶ所を建設する事となりたり

●監督局長會議の終了　先日來度支部に於て開會中なる財務監督局長會議は今尚協議中なるが二十日終了の筈

●石原釜山民長の再任　釜山民團民長石原牛右衛門氏は任期滿了の處昨日統監府は引續き同氏を再任したりと

●大韓協會支部の設置　大韓協會は今般總會の決議を以て全羅北道任實南原二郡に支部設置の件を認可したり

●京元間の視察團　京元鐵道急設に決せし爲め京元沿線に於ける物資其他を調査するの目的にて元山毎日新聞社主催の下に京元間視察團を組織し近々同地出發陸路(十日間)當地に着し京仁間に二泊し夫れより京釜線に依りて釜山に出で江原道沿岸を視察して歸元する豫定なり

●福岡縣共進會と韓國　明年三月より開設さる可き福岡縣共進會に就ては韓國よりも模型圖表及び各種物産工藝品を出品する筈にて農商工部にては着々其準備中なるが開催地九州は韓國と地勢上特別の關係あるのみならず貿易上に於ても密接の間柄たるを以て同會事務所にては可成韓國人の來觀者多からん事を希望し出品種目も豫定以上に増陳して汎く九州沖繩等八縣の産業狀態を紹介すべく且つ會期も延長し又往復滊車滊船等も鐵道當局者と交渉の上割引し其便利を與ふる計畫なりと云ふ

●仁川會議所臨時總會　仁川商業會議所は一昨日臨時總會を開きたるが出席者は兵須、桑野、石井、市川、葛城、加來、村谷、伊東、沖津、樋口、中山竹田、慶田、青木、近藤の十五議員にして議題は京元三南兩鐵道急設請願に關する件なるが東電に依れば無事閣議を通過せし由なれど今般之れを以て油斷すべくも非ざれば今後の運動方針に就き審議せし結果群山、木浦、京城、龍山等の有志者と相扶掖提携して極力速成運動に努むる事を決議し尚ほ場合に依り委員を東上せしむべしと

●電車延長線の認可日　日韓電氣瓦斯會社は黄金町に電車を延長せんとし理事廳を經て認可申請中なる由既報の如くなるが同廳にては既に調査を了し韓政府へ交渉中なれば四五日中に認可すべし

●初發以來の邦人虎疫　一時は非常の猖獗を逞ふし其猛勢尚に屬る可きものありし虎列拉も防疫當局者の熱心なる豫防によりて遂に全く終熄の効を奏したるが初發以來京城居留民團管下に於ける總患者數及其成績を統計するに左の如し

總患者數	全治退院	死亡	入院中
一三六	五九	七九	二

則ち總患者に對する死亡率は五割八歩强なるも自宅死亡者二十名ありたれば避病院に收容せし患者の成績は比較良好なりし由

●全羅南道の水産　韓國三大生産の一なる水産業は全南を第一とし年額八百萬圓と稱せらるゝが

▲漁業　其中漁業は光陽、突山、安島、巨文島、金鰲島、安島、珍島、湫子島、濟州島、大黑山列島、木浦、七山灘等を産地とし就中七山灘の石首魚は明太に次ぐ韓國の主要水産物にして七山灘は七山島を中心とし南は落月島より東は本土の岸に沿ひ西は黄海に及び約十里平方の遠渉海面なり平年の漁獲高は地曳網、魚張等の漁獲を併せ一漁期約三十日間に三十万圓以上六十萬圓に上り之に次ぐを干鰯とし一昨年の輸出額は六万二千六百餘圓なりしと

▲海苔　突山、長直路、黑山島、智島、近海の岩礁間に生ず品質良く香味佳なれども製法粗雜にして且つ稚草砂石の附著するものあるが故に製法を改良せざるべからず

▲天草　長直路、北安島、濟州近海に生す殊に濟州は其産地にして無盡藏と稱せられ有名なる同島の海女及我潜水船にて採取す

▲海草　沿海に饒産す就中莞島、北安道珍島、秋子島、濟州島等を産地とし一昨年の輸出額が僅に四萬〇百二十三圓に過ぎざりしは濟州島其他より密輸出多きを證す

▲製鹽　智島、珍島、得糧灣の沿岸は遠渉に淺して潮の干滿甚しく灣入せる干潟に鹽田區地甚だ多く特に氣候温暖にして雨量少きか故に既設鹽田を改良し新に鹽田を設けば其産額誠に莫大なるものあるべく全國一箇年の産額百三十万石の半部は現在全南の地に産すと稱せらるゝを以て其盛なるを知るべし然るに拘らず近來燃料沸底の結果製造費騰貴したるに因り賣價と平衡を失し製造高次第に減少す天日製鹽を以てせば回復するに至らん

●郵便局員運動會　仁川郵便局は一昨日觀測所下に於て秋季大運動會を開催し數番の競技ありし後園内に仕つらへし各模擬店を開き局員の演劇等の餘興あり盛況なりき

●經濟研究會例會　仁川經濟研究會第三例會は來る廿五六日頃開會する筈なるが問題は前回宿題となりし韓内地道路改善の件

●土井院長の退京　豫て滯京天眞樓に投宿中の大邱控訴院長の同氏は去十七日歸任

●漫遊團体大逆行　仁川を一昨日拔錨せし安東丸にて米人漫遊團体六名大連へ向ふ

●防疫慰勞會開催　仁川の有志者は警察署員及び其他衛生係員等が曩日に於け

●滿韓鐵道連絡の發展　滿韓鐵道連絡の第一着手として統監府鐵道[illegible]で今回當事者間の協定を了へ來る十月二十一日手荷物の直通輸送を開始し同時に現行小荷物は度支部關税局及び滿國税關に於ても多大

加へ兩鐵道の關係益々切實となりたるを以て[illegible]春(以上南滿本線)の各驛相互間に於て旅客代辨の依頼に應ずる由右は連絡輸送に就て又は安東縣にての乗車券買ひ換へ又は荷物託送替等の不便を除き滿韓旅行者に取りて

●二等主計首藤氏　平壤憲兵隊付の同氏は入京中の處去十七日任地へ向け出發せり

●忠州農銀支配人　赤松時園氏は豫て入京三日月旅館に投宿中の處去る十六日出發

●三宅博士の出發　十七日開城へ出發す

●木浦民長高根氏　十七日入京即日歸浦

●藤代衆議院議員　十六日釜山に向へり

●松本木浦理事官　十七日入京即日歸任

●林平壤鑛業所長　公務にて昨日入京す

●飯田警視の入退　十七日入京即日歸任

●專賣局技師出發　奥健造氏は鎭南浦へ

●判事白井水城氏　昨日仁川へ歸任せり

●中村一銀支配人　十六日入京不知火へ

近事片々

▲京元　湖南兩線危く内閣會議に否決されんとして首相の說明にて明年起工に決すと

▲韓國　よりの數通の電報は慥に閣議を動した觀あり統監得意滿面とは果して眞乎

▲鐵道　布設の急務は勿論なるも統監として更に尚幾多解決すべき問題眼前に横はる

▲田は　色づ恳刈入時は來れり活眼以て見よの基督の言を片々は移して統監に警告す

▲兩線　起工位に滿足してはならぬ機は漸く熟し來る統監の快腕一揮を要する時來る

▲日韓　人の經濟的狀態よりして局面展開を要す然らざれば人心倦疲て困憊しやせむ

▲大阪　毎日は日本人大臣を置くよりも此際勇斷以て政務を委任せしむるが可と說く

▲外交　軍事通信交通司法既に委任せしむ更に行政教育權を委任せしめよとは適切也

▲統治　の組織にして變すべき者ありとせば一切直接統治同樣の域に達するを望むと

▲韓人　も在留邦人も現時の經濟狀態には殆ど窘窮す統監の斷を望む事一日千秋の思

▲濟津　元山敦賀間航行の三角航路に就て日韓貿易の現勢は未だ必要を不認とは不埒

▲韓國　の開發は單に現在の貿易耳にて爲す者に非ず其開發經營は帝國自衛の爲め也

▲貿易　額少し迚必要なしとは何ぞや韓國經營は貿易の爲耳に非ず當局の迂も亦極る

▲仁川　の築港濟津の築港は韓國經營に於ける二大急務財源なくば外債を起すも亦可

▲此二　關門の設備は鐵道布設に劣らざるの急要問題統監は斷然此關門修築を決せよ

▲露國　浦鹽自由港の閉鎖を悔ひ復活せんとの議ありと是は最初より判り切たる事也

▲駐清　米公使クレーン氏辭任は事實扨も米國として最も稀有の出來事と言ふ外無し

▲大統　領タ氏が國務卿ノックスの所置を是認したるも聊か意外後任は夫れ何人にや

▲ウイ　ッテ伯日本に來遊せらるべしと彼は今醉肉を感ずる本漫遊は勢力樹立の爲か

▲大河　内輝剛の葬式に井角俳優行列の間に自動車を驅る爲に女子共は俳優と誤らる

▲見物　娘共曰く彼の顏でも役者になれるかと蟹中澄して已は蟹十郎と云ふ役者也と

……しが近時鐵道に據る滿韓旅行者漸く多きを述べ旅順、營口、千金寨、遼陽、奉天、鐵嶺に於ける小荷物の通關手續を鐵道に於て無料にて取扱ふこととなり從來手數と時間を要せし新義州……

●西角所長の退京 ……西角熊雄氏は要務を辨じ十六日歸京したりと



●戀の日韓同盟

△箱入娘の相場暴落
△情夫はヨボの小使

去る十五日西部警察署に四十前後の日本婦人が髮もしどろに服裝も取亂して駈付け息も喘ぎ〳〵て額の汗も拭きあへずして訴ふる樣、妾は北米倉町七番戶の一土木請負業佐々木健次郎女房たけと申す者ですが昨夜天にも地にも掛け替のない次女たつ(十八)が無斷家出せし儘今に歸宅せず或は惡漢の爲め拐誘せられたのではないかとそれで至急御上の手で御搜索して下さつて一時も早く可愛娘の無事な顏が見たいばつかりに願に參りましたと息も繼がず述べたれば請台の警官はわいけに取られたるが同人に向ひ娘に情夫があつて駈落したのではないかと問ねば同人は氣色を爲ねいゝえ妾の娘に限つて甚麽淫奔の事は決してありませぬ親の口から何ですけれども町內の評判娘でしてなか〳〵の緻標よしで唯玉に瑾は頭の髮が少し赤色を帶びて居るだけでほんとに箱入娘とは這娘のとだと人樣の噂がある位ですから一時も早く搜し出して引渡を願ひますさて臆面もなく口角泡を飛しての申立てに居列ぶ係官も思はず噴き出したるが成規の搜索願ひも提出せしとなれば警察では其儘捨ても居けず直ちに平素同家に出入する男に就て詳密內偵を遂げしに茲に南部會賢坊司畜洞居住元龍山地方にて靴屋の小使をなし後解傭せられ目下無職の韓人李當房(二十)なる者本年六月頃より同家へ出入し至極溫和の性質にて用などを辨じて小まめに立働くより佐々木夫妻は內心大に信用して相當便宜を與ね居りしに同人は男振りも滿更ならず日本語にも多少通じて夜なども遲くなるまで遊びて歸り夫婦の者も別に氣にも留めざりしが一生の誤り自稱箱入娘なるたつは何時しか李に口說付られ初めの內こそ嫌やの好かぬのと首なく袖を振切りて逃げ廻りしが斯道に長けたる李は遂に怪しき日本文體にて聞くか聞かぬかの最後の通牒を發して遂にたつを手に入れ李は迂頂天となり友人間に日韓戀の同盟の開祖なりとて高くもあらぬ鼻を蠢かし居りたる處遂に去る十四日の晚たつを竊かに誘ひ出し龍山なる實家へ連込み心置きなく樂み居たるが實家は貧しき上に老母ありて心よからずさて又候同人の姉なる龍山楷郭洞金色五方へ移りて別室の溫突內で誰憚からず乳繰合て居たる處を南部署よりの命に依り大貞洞派出所園田巡査の發見する所となり兩人共本署に引致して嚴重に其不心得を諭されしが茲に最も滑稽なりしは母親たけにて係官より事の始末を聽かされて大に恥入り席に居堪まらずして娘サアれじやさ手を引いて逃るが如く退出せしが箱入娘の相場も朝鮮だけに安いものとの評判ちや評判なりや

●逃げ損じた鳴吉

▲道連れは洋服店の女房
▲男地獄愛澤を慕ふて女優志願▲仁川にて捕はる

去る十六日の午後一時頃仁川の波止場より年若き丸髷姿の二名の女がシャンパンに打乘りて福州丸に漕ぎ寄する舉動の只ならぬものあるを海上巡視中の水上係警官は一先づ本署に同行して取調べたるに一名は京城消華亭の俠妓鳴吉(二十)事愛知縣生れの美和まつと今一人は京城旭町三丁目洋服商高橋清造の內緣の妻上野まつ(三十)と云ひ曾つては當地改進亭にて左褄を取りたる代者なるが何故失踪したるやと嚴しく詰問せられたるに口角泡を飛すの概にて右鳴吉の述ぶる處に依れば同妓は三百圓にて精華亭に抱へられたる者なるが持つて生れし負けぬ氣性の爲め諸所方々に借金を仕出來し其額は積り積りて二百圓餘に上り殊に先般當地に開演せし擲翠樓の老女將を手玉に取り數千金を絞り上げたる色界の大魔王愛澤正義に嚇魂惚れ込み大分注ぎ込みたる爲め二進も三進も行かぬ窮境に陷り日每の借金取りに首も廻らぬ仕義となりたるのみならず戀しい愛澤は鎭南浦に乘込みしと聞いて矢も楯も堪らず跡追ひて女優に採用して貰はんと無分別にもドロンを極め込みたるものにて亦たマツの方は亭主なる清造が生活のなきに愛憎をつかし兼ねて知合ひの間柄なれば共に謀し合せたる上斯くの次第さるにても折角逃げ延びたるに仁川にて其筋の手に取押へられしは神佛も無き世かなぞと地團太踏んで殘念がり奇麗に結てあつた丸髷をば自棄まぎれに滅茶〳〵としたるにはさしもの係警官も開いた口が塞がらざりしとか斯くて同夜右鳴吉は樓主にまつは亭主に引渡して今後心得違ひなき樣說諭されたりと云ふ



鳴吉の丸髷姿

●醉漢の毆打騷ぎ

原籍三重縣平民當時京城南大門通三丁目丁字屋洋服店料理人安保剛平(三三)と謂ふ男は名前だけは至極眞面目らしいが去る十七日南米倉町和樂園に於て同店雇人六十餘人の秋季大運動會を催ふしたる際同公園地に於て旭町一丁目淺見指物工場職人成田政次郎(十九)が硝子障子の修理を爲し居たる處に同人の上草履を脫ぎ置きたるを前記剛平が酩酊の結果無斷にて履きたる儘政次郎の仕事の防害をなし剩へ同人を突倒し右足部關節に微傷を負はせたる騷ぎに南部署山田巡査同人を引致し嚴重取調べたるも全く酩酊の結果亂棒を働きしと判明し事件輕微なりしかば同人より政次郎へ治療代金二十錢を支拂はしめて和解

●功七級の理不盡

原籍兵庫縣平民當時京城本町三丁目伊藤組車夫森島豐三郎(三九)は豫備步兵軍曹として日露戰役の功に依り功七級勳七等を賜はりし殊勳者なるが同人は酒癖至つて惡しく昨日午前二時頃何處で飮んだか非常に酩酊して本町四丁目街路に於て南部筆洞統戶不詳車夫鄭辰玉(三〇)を捕へ己れは功七級の在鄕軍人樣だと威張り出し果ては鄭に口論釜敷行爲をなし喧嘩を吹掛け理不盡にも鄭を押倒し着衣を剝ぎ亂棒を働き居たる處に本町派出所巡査が巡廻し來り將來を說諭して歸宅せしむ

●三面辭令

靜岡縣生れ大桝屋抱竹葉事原田けん(二二)は龍山桃山紀の國屋に勤務を命ずる旨去る十五日付辭令あり橫濱生れ若春樓抱松ケ枝事松井秀子(二三)は龍山一樂樓へ兵庫縣生れ清進樓抱愛介事松本みつ(一九)は桃山清榮樓左團次の榮轉せし者清進樓清子事松尾くん(二三)は桃山清榮樓より替龍山一樂樓抱八重子事田中ひさ(二二)は新町清進樓に神戶生れ福田事谷口きくね(二三)は桃山遊廓清榮樓より新町清進樓轉勤を何れも去る十六日付辭令ありたり

●敷島樓跡の怪談

仁川敷島遊廓內に數多ある茶家の內の元敷島樓跡は昔の歡樂場も一場の夢と消へて昨今は鼠一疋曙かぬ幽靈屋敷と變せしぞ有爲轉變の哀れを感づるなるが之れは亦た如何なる仔細ぞ每日每夜時を定めてパチ〳〵と妙なる音の聞ゆるはテモ不思議なりと近所にての評判なるが清八風の吹かすば其の音も止むまじとぞ

●不熟の柿を賣る

南部下渠洞統戶不詳鄭閑九(三二)は去る十七日午後三時半頃本町六丁目韓人春根方店前に於て雇人鄭永吉(十三)をして不熟の柿を販賣せしめ居たるを南部署巡査の發見する所となり本人を最寄派出所に連込み懇々其不心得を說諭の上柿百十個(代金廿錢)は現場にて投棄せしむ

●新活動寫眞

去る十八日迄大阪辨天座に開演中なりし東洋活動寫眞は來る二十三日より當地歌舞伎座に開演の筈なるが重なる寫眞は高田實一座の松風村雨、水野好美の赤垣源藏其他琵琶歌外國寫眞數十枚にして尤も振つたるは彩色美人なりと尙辨士は聲色道で有名なる土屋松壽並に秋月郁子と云へる頗る付の美人が何れも役者の聲色にて說明する由

●油斷ならぬ女房

仁川支那町二丁目小川佐市(三十)と云ふは去る十六日本町四丁目岸井某に支拂ふべき金子二百圓を其の內緣の妻齋藤ちよ(二五)と云ふに銀行へ引出しに行かせたるに右ちよは內四十圓を着服して如何にするも出さず剩さへ其金を手切金として離緣を迫るより詮方なく仁川署に其旨訴出で辛ふしてちよより右四十圓を差出さしめ其場は圓く收まりたるが其後前記夫婦間の葛藤は圓滿に解決したりや否や

●勞働組合に說諭

仁川勞働組合の紛擾は前號にて報道せし如くなるが一昨日仁川署長は右應信聽總務及び日韓勞働組の組長をば本署に召喚して此后行違ひを生せず圓滿に勞役事業に從事する樣說諭したりと

●一昨夜の新町

一昨十七日新町遊廓の色餓鬼は總計八十七人にて此揚高四百四十四圓八十錢なり

●自轉車競走會

京龍各自轉車商會の發企にて近々秋季大會を龍山にて催す由

●花柳だより

清華亭の雛妓丸子は本春大患に罹り一時快癒せしに又々昨今重病に陷り古城病院に入院中なるが茲二三日の命とかにて鄕里より母親杯も來り泣き明かし居れりとか、病氣は下の病ひの由なるが、まだ二八に滿たぬ蕾の花をして徒らに手折らしたるが爲め斯かる悲慘なる最後を見るに至りしものならん、其罪抱主にあるか將た又少女の操を弄んで快とする色餓鬼共にあるか枕邊に座せる貧しき母の胸中やそも奈何、併し之れは淚多き筆者が余りの悲觀かも知れぬ或人は云はん十五や十六の少女が能く其婦人の天職(か)を全くしたる名譽の死だと▲曾て花月樓に婿を稱へし房江は其後神戶仲検に又藝妓を以て鳴りし若一は鄕里德島へ歸省中なりしが韓の空の戀しくてにや又々元の古巢へ舞ひ戻り近々の內二度の御披露に及ぶ由▲女將の不行跡雁八等の橫著より暗澹たる擲翠樓も御大文之助の歸樓と共に一新面目を開くならん▲井門本店へは昨今二名の新妓現はれたり一は生粹の江戶妓にて鶴香と云ひ一は大阪生れにて先きに仁川淺岡で芳町と云ひしが此樓では米吉と名乘り共に鶴群の一鶴とも云ふべき堀出物の由(花柳子)

演藝

▲壽座●は愈々來る二十二三日より既記新派劇界の泰斗福井茂兵衛及び伊東文夫一派の合同劇開演の筈にして初日出し物は一番目「雅會我」二番目「丸橋忠彌」切りは潮の筈なりしも多分沙翁の傑作「べニスの商人」と極まるべし尙ほ仕打の阪本氏は福井茂兵衛優出迎の爲め一昨日上阪したりと▲曾て伊井蓉峰一座にあり後ち田宮貞雄の座員となり大連に開演中の篠田馨は去る九日脚氣衝心にて同地にて死亡せし由▲愛澤一座は仁川を打ち揚げ後平壤に乘り込み去る十五日より同地に開演中▲京城座●梅花美團は引續き十六日より開場▲永樂亭●は玉川梅光一座の浪花節あり

吉凶鏡

十月十九日舊九月六日三碧友引壬子みつ八せんの入り△一白●可もなく不可もなし金融に關する業務には吉△二黑●間違紛擾起り易し過失より自他の什寶を損壞するなかれ△三碧●人より妬み嫉まるゝあり旅行轉住入門婚姻集會結社等凶尙盜害防ぐべし△四綠●親しき間に紛爭起り易し禮を紊すなかれ△五黃●盜害紛爭避くべし建築動土には吉△六白●障害多し改變創始の事益なし尙旅行轉住凶△七赤●衰退の日新事見合すべし建築農業には吉△八白●徒勞に歸し易し金談取引談判談合等避くべし△九紫●顯進の日なり大抵吉入學門婚姻養子旅行舟下に等吉

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接同館の鑑定を請はる可し

●天氣豫報

(自十八日午後六時至十九日午後六時)

東風曇少雨

十七日(華氏) 最高溫度 七二、九 最低溫度 四六、九

公告

一掛時計 一箇

右陸軍步兵少佐武藤一策殿ヨリ當第一尋常高等小學校へ寄附相成候ニ付此段公告ス

明治四十二年十月十八日

京城居留民團民長 熊谷賴太郎

廣告

各種洗濯石鹸専門製造販賣
用途
陸軍、鐵道、船舶、鑛山、水道、湯屋、散髪、諸工業用
京城旭町二丁目 (電話九七三番)
朝日石鹸製造所

●電話開通 八百三十五番●
唐津石炭 直輸入商
並ニ平壤無煙炭あり
京城太平町一丁目九五 南大門高等女學校裏通り
近藤商店

官營 平壤無煙炭特約一手販賣
弊店渡壹噸に付
一塊炭 金九圓九十錢
一粉炭 同上 金七圓九十五錢
平壤炭は煤煙皆無にて火力及び持久力に富み至極經濟的なる燃料なり
但以持込費代は別に申受候
京城南大門外古市町二丁目 (電話九四一番)
中部鐘路通一丁目 (電話一三八番)
西小門外獨立門通り
龍山代理店 (電話一五六番)
苫米地造酒彌
中部出張所
西部出張所
保高德松
市内各所に取次店有之候に付御便宜の場所へ御申込被下度御注文の節は必ず平壤無煙炭と御申込願上候

上等石炭各種
並に無煙炭販賣
京城本町二丁目
林田交換所
(電話六十五番)

●品質純良の牛乳を得んとせば乳牛の食料に注意を要す弊場夙に此に留意し好良の食料を給す



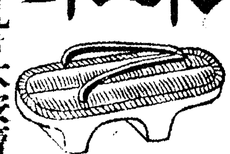
京城本町五丁目 (電四七番)
販賣元 仁川松尾支店
京城東四軒町 (電七五番)
搾取所 松尾牧場
●弊場搾取の牛乳を愛飲せらるゝ御諸君は最も滋養に富み風味佳良の牛乳を飲用し得らるべし

消毒用デシンフォルマリン外一式
病虫害驅除豫防薬一式
工業用薬品一式
農具種子苗木肥料類
京城本町一丁目 (長谷川町筋)
三輪商會
電話三八六番

荒物世帯道具一切
大阪 合製白絞油利洋蠟燭
和傘岐阜提灯魚釣道具
荒物世帯道具
各國諸油米穀
銘酒澤龜 アサヒ サッポロ 麥酒
並に買次業
卸小賣
地方在住の各位には御申越あり次第代金引替證付又は代金引替小包郵便を以て御送付申上候尚弊店營業品目録御入用の御方は御通知あり次第送呈申上候
京城本町六丁目
西 西崎嘉七本店
(電話長二一〇 電略(ニカ又はニ) 振替貯金口座東京(九四一七番))

各務御用
新聞及表装材料調進
廿本房太郎
電話一七五番

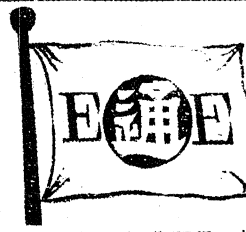
東京
足袋
正札付大安賣 厘毛引なし安心して買へ升



本店東京
京城大和町一丁目 (日の出橋際)
大和屋
藤井出張店
電話二百〇五番

蒸汽 牛乳 消毒
京城大和町一丁目
牛山牧場
電話一三三

辯護士 特許代理業者
京城明治町二丁目 (佛國教會前)
岩田仙宗
電話三五四番



貨物運送取扱 危險擔保運送 税關貨物取扱 品代附金 貨物引換證發行 代運貨物

內國通運株式會社
京城南大門驛前
京城支店
電話一七九番 電話七〇八番
仁川驛前
仁川出張所
電話一五一番
草梁驛前
釜山驛前 草梁驛前
釜山出張所
電話五一六番 電話六三七番
龍山驛構內
龍山派出所
電話二〇六番

明治廿年七月創立
東京海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓
京城代辨店 本町四丁目山口呉服店 電話九番
事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候御客様に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉強可仕候間倍舊の御引立奉願候
京城南山町四丁目
原金旅館
(電話長一〇七番)

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ (紹介ヲ要セス)
京城旭町一丁目六十七番戸
辯護士 岡田榮
(電話三九八番)

大 命 萬

特約販賣 自製
漬物 味噌 醬油 製造元
京城本町五丁目
大上商店
和洋酒、精酎、穀物類、銘茶、罐詰、乾物荒物、食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候
(電話二五一番)

營業科目
活版、石版、銅版
各種印刷
帳簿裝釘、書籍
製本及ビ印刷
諸材料販賣
日韓印刷株式會社
遍ク諸材料ノ精撰ヲ計リ期日ノ正確ヲ旨トシ最モ敏活ニ最モ低廉ニ御需ニ應ジ候間多少ニ不係御注文ノ程希上候
本社 京城明治町三丁目 電話三三三番
出張所 東京麹町區麹河八丁目十九番地 電話番町二九〇番



新荷着廣告
上等 トルコ煙草 各種
キルク口 百本入、五十本入、廿本入、十本入
上等 ロシア煙草 各種
百本入 廿本入
上等 葉巻煙草 各種
マニラ ハバナ 百本入、五十本入、廿五本入
右今般多數着荷仕候に付特別安價を以て販賣仕候間多少に不拘御購求被下度尚地方よりの御注文は引換郵便にて汎速に御送附可申上候間續々御注文被下度偏に奉希上候
京城本町四丁目角
デーエスパネリス商會
仁川本町四丁目 (取次電話九五六番 電略パチリス)
顯原兄弟商會

たやすくうります
綿わた ワタ
ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋反物類
京城明治町一丁目四ツ角
卸問屋
唐川房店
電話六一二番

入院 隨意
南山町一
松岡醫院
電話六七五番
各科診療
赤松時園氏は歸て入院出發せり

梅毒 りん病 リウマチス 新藥
毒滅



大阪 博愛 藥房 各驗實院醫證明

完全ナル懷中藥



代理店
京城南大門通三丁目
藥井藥房本店
電話一〇六八番 九〇四番
京城本町三丁目 (電話四七八番)
新井藥房第一分店
京城南大門外
新井藥房第二分店

折箱製造元
京城明治町一丁目
五十番戸 漢城病院下横へ入ル
箱信事 烏山商店

日本郵船株式會社
仁川濟船出帆廣告
貨物及船客取扱店
仁川海岸通 電話三九番
郡回漕店
電新十番
●釜山長崎門司神戸行
山東丸 十月二十四日正午出帆
●大連、太沽行
高砂丸 十一月十八日正午時出帆
●大連、大沽行
山東丸 十一月九日午前四時出帆
●大連、大沽行
酒田丸 十一月四日正午時出帆
●釜山出帆、元山、清津、浦鹽行
立神丸 十月二十七日午後出帆
御注意 御乗船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ解纜ノ事

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金卅五錢 ▲三ヶ月 ▲六ヶ月前金貮圓 ▲郵税一ヶ月金
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回五十錢 ▲特別 廣告五號活字十九字詰一行金六十錢
發行兼編輯人 高木久馬
印刷人 鵜久神一郎
發行所 京城新報社 京城西署西小門通 電話六六